

地域の期待の星、次代を担うりんご剪定士活躍中!

当市の自慢の一つといえりんごですが、おいしいりんごができるまでには、多くの工程が必要です。特に、剪定はりんごの良し悪しを左右する重要な作業といわれています。

そこで剪定技術を高めるため、1月26日～28日の3日間、市内のりんご園でごしょつがる農業協同組合が主催するりんご剪定講習会が行われました。

講師を務めたのは、3名のベテラン剪定士のほか、**第8期剪定士で今回が講師デビューとなった福士美奈子さんと佐藤昭浩さん**で、参加したりんご生産者約30名が講師の話に耳をかたむけていました。

福士さんは当市で初めてとなる女性の剪定士です。また、佐藤さんは、りんご園を経営してからわずか6年という異例のスピードで、当市初の「わい化栽培」での剪定士となりました。2人は地域のこれからのりんご栽培を担う「期待の星」です（詳細は最終ページに掲載）。

福士さんに剪定についての話を伺うと「剪定で大事にしている部分は生産者それぞれ違っているが、良い

りんごを作るための気持ちは皆さん同じ。また、木1本1本の状態が同じではないので、そこを見極めながら作業を行う必要がある。そこが剪定のおもしろさであり、難しい部分でもある」と話しました。

剪定は例年、3月末頃まで行われ、おいしいりんごができるまで、たくさんの手間とたっぷりの愛情がそそがれ、実りの秋を迎えます。



剪定を実演する福士さん（中央）

今月号の表紙

〔目指せ！オリンピック！金木ジャンプクラブ〕

今月号の表紙を飾ったのは、金木ジャンプクラブのスキージャンプ練習の様子です。今回、沢田珠慧莉さんにお話を伺いました。また、同クラブを卒業し、先日開催された全国中学校スキー大会に出場した藤元彩子さんを紹介します。

沢田さんは現在、金木小6年で小学1年からスキージャンプの練習を始めたそうです。日本を代表する女子スキージャンプ選手の高梨沙羅さんに憧れを抱き、また、沢田さんの父親もスキージャンプをしていたことがスキージャンプを始めたきっかけだそうです。

令和3年7月に北海道で行われた全日本スキー連盟A級公認 第29回全日本サマーコンパインド朝日大会では小学生（男女）の部でノルディック複合に出場し、6位入賞の成績を収めています。

沢田さんに今後の目標を伺うと「中学、高校もスキージャンプを続けて、将来はオリンピックに出場して活躍できるような選手になりたいです」と笑顔で話しました。



金木ジャンプクラブの皆さん
(沢田さんは後列左から2人目)



この選手に注目!

また、同クラブを卒業した金木中3年の藤元彩子さんが先日、長野県で行われた第59回全国中学校スキー大会に出場し、スペシャルジャンプ女子の部で準優勝、ノルディック複合で3位の成績を収めました。

藤元さんも小学1年からスキージャンプの練習を始め、小学5年頃からジャンプの成績を伸ばし、中学1年で全国中学校スキー大会に出場。スペシャルジャンプ女子の部で準優勝の成績を収めています。昨年は新型コロナの影響により全国中学校スキー大会が中止となりましたが、2大会連続でメダルを獲得しました。

スペシャルジャンプ女子の部で準優勝した賞状を持つ藤元さん（右写真）

